

風土接触が大学生の地域愛着に及ぼす影響に関する研究

秋田大学 学生員 ○小坂 亮太
秋田大学大学院 正 員 鈴木 雄
秋田大学大学院 正 員 日野 智
秋田大学大学院 正 員 木村 一裕

1.はじめに

住民と地域のつながりの一形態である「地域愛着」は、住民の「地域」に対する態度や関与に影響しうる心理的要因であり、「地域」のあり方を考えていく上で重要な役割を果たすと考えられている。地域住民と「地域愛着」の関係を示したものを中心に既往の研究も少なくない。しかし、地域外から転入した大学生の「地域愛着」の醸成の要因は一般の住民とは異なると考えられ、大学生の風土接触による愛着の醸成に着目した研究はみられない。本研究では、地方都市圏の大学生の地域愛着醸成に着目し、大学生ならではの行動や活動、風土接触と地域愛着との関係性やその構造を明らかにする。

2. 大学生の地域愛着に関する意識調査

意識調査は秋田の大学生を対象に501票を回収した。地域愛着に関する項目は「選好」「感情」「持続願望」からなる計14項目を選定した。風土接触に関する項目では、事前に秋田大学の大学生数名に地域での経験や意識を自由想起により出してもらい、その中から選定した。

3. 地域愛着の醸成に関係する要因

(1) 大学の在学年数と地域愛着

図1では「秋田に愛着を感じる」の質問項目に対する回答結果である。さらに、愛着の大きさをみるため、地域愛着に関する「秋田が好きだ」、「秋田の雰囲気や土地柄が気に入っている」、「卒業後も秋田に住み続けたい」などの質問14項目を、「そう思う」を5点、「そう思わない」を1点とした5段階評価の平均点として算出している。在籍年数で見ると1年目から4年目につれて愛着が年々上がっていることが分かる。在学4年目の大学生の愛着が3.41と最も高く、在学3年目とは0.56の差がある。これらの間には有意な差がみられた(図2)。また、在学4年目の大学生の愛着の大きさ

の人数割合をみると、「1.0~2.0」と「4.0~5.0」の割合がそれぞれ1割程度であり、同じ在学年数の中でも愛着の大きさにかかなりの差があることがわかる。

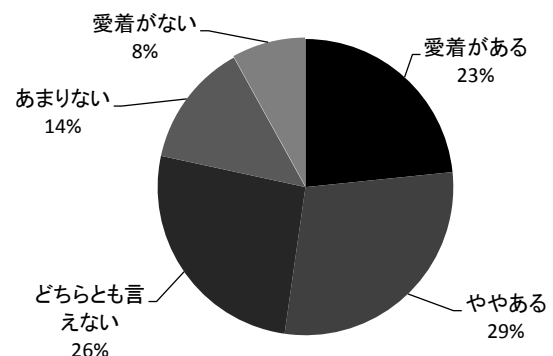


図1 全体の地域愛着の割合

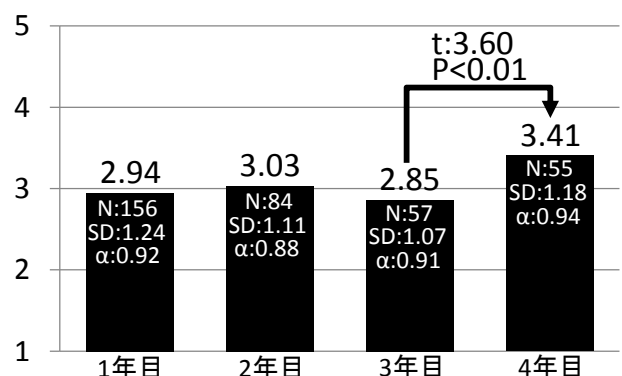


図2 転入者の大学在籍年数別地域愛着

(2) 地域の総合満足度に与える影響

愛着の大きさが4.0以上の被験者を「愛着が高い学生」、4.0より小さい被験者を「愛着が低い学生」として分析する。愛着の高さ別の地域満足度をみると、愛着が高い学生は「地域の自然」「人の温かさ」「暮らしやすさ」などに満足していることがわかる(図3)。一方、愛着が低い学生は高い学生と比べ、全体的に地域の満足度が低い。地域の総合満足度に影響する項目を把握するために、外的基準を地域の総合満足度、アイテムを地域の各項目として数量化理論Ⅱ類による

キーワード：地域愛着、風土接触、意識調査分析

連絡先：〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1番1号 TEL:(018)-889-2767 FAX:(018)-889-2975

分析をおこなった。そのレンジ値を表 1 に示す。愛着が高い学生は「地域での交通」「地域の自然」、愛着が
高くない学生は「人の温かさ」のレンジの値が大きく、
これらの項目が地域の総合満足度に与える影響が大き
いといえる。

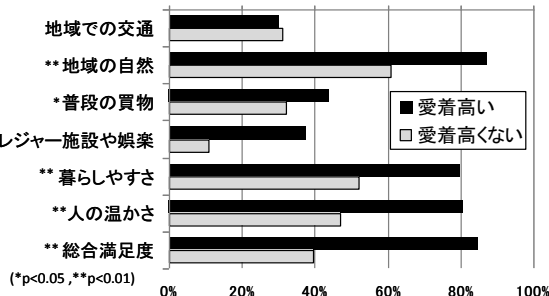


図 3 愛着の大きさからみた地域の満足度比較

表 1 愛着の高さ別でみる地域の満足度

	愛着高い	愛着低い
地域での交通	1.58	0.61
地域の自然	1.86	0.52
普段の買物	1.15	0.81
レジャー施設や娯楽	0.28	0.65
暮らしやすさ	0.71	0.69
人の温かさ	1.15	1.26
相関比	0.57	0.47

4. 風土接触の尺度解釈と地域愛着の構造化

(1) 地域愛着に影響を与える風土接触の尺度分析

地域愛着に影響を与える風土接触の尺度を測るため
に、風土接触の 23 項目について因子分析をおこなった。
各項目間に相関があることが考えられるため斜行回転
(プロマックス法) により分析した。固有値が 1 以上
の 7 成分が抽出されが、本研究では寄与率の推移がな
だらかになる第 3 因子まで解釈した。各項目の因子負
荷量から、第 1 因子を「地域の良さを感じる好感度尺
度」、第 2 因子を「地域の人との交流尺度」、第 3 因子
を「地域の物や人に対する興味の尺度」とした。地方
都市圏ならではの行動や経験は地域愛着に与える影響
が大きいことが分かる(表 2)。

表 2 風土接触の尺度分析

変 数	因子1	因子2	因子3
秋田の文化や方言が好き	0.738	-0.230	0.000
秋田の自然を誇れる	0.713	-0.033	0.156
秋田の景観が好きだ	0.675	0.085	-0.093
秋田県内での観光が好き	0.666	0.091	-0.186
秋田の人が温かいと感じる	0.601	0.066	0.142
秋田の食べ物おいしい	0.464	-0.132	0.349
秋田の四季を満喫している	0.461	0.124	0.119
秋田で長く付き合いたい人がある	0.363	-0.004	0.254
町内活動に参加している	-0.116	0.737	0.091
大学以外の知り合いが多い	0.065	0.522	0.058
秋田で地域の人と挨拶を交わすことがある	0.014	0.513	0.284
秋田のスポーツチームを応援している	0.233	0.481	0.044
県外から友人を招くことがある	-0.179	0.349	0.131
秋田の温泉を満喫している	0.231	0.320	-0.220
メディアで秋田が取り上げられると気になる	0.005	0.091	0.751
秋田のいいところを知る機会が多い	0.052	0.246	0.457
大学関係で知り合いが多い	-0.048	-0.217	0.359

(2) 地域愛着に影響する要因

地域愛着に影響する要因を把握するために、クロス
集計による地域愛着の大きさの分析をおこなった(表
3)。「地域の住民は温かい」などの項目では「そう思う」
の人の方が「そう思わない」人よりも地域愛着が大き
く、この間には有意な差がみられた(図 4)。一方、「地
域の買い物が不便だ」などの項目は「そう思う」「そう
思わない」の愛着の大きさは変わらず、有意な差もみ
られなかった(図 5)。地域の便利さよりも風土接触の
方が愛着に与える影響は大きいといえる。

表 3 風土接触と地域愛着の大きさ

	そう思う			そう思わない			t 値
	n	M	SD	n	M	SD	
地域の住民は温かい	316	3.65	0.72	193	2.76	0.79	13.05 **
県内の四季を満喫している	268	3.73	0.63	241	2.85	0.85	13.32 **
県内の観光が好きだ	177	3.75	0.81	332	3.08	0.80	8.98 **
地域の買い物が不便だ	341	3.35	0.64	168	3.23	0.95	1.51

n: サンプル数、M: 平均、SD: 標準偏差、**p<0.01

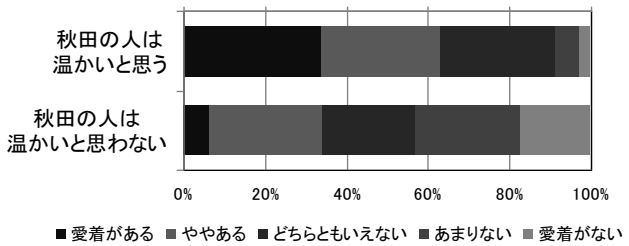


図 4 地域住民は温かいと思うかどうかと愛着の関係

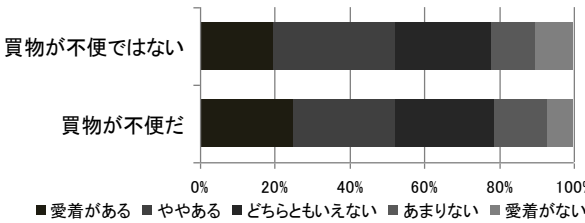


図 5 買物が不便と思うかどうかと愛着の関係

5. おわりに

本研究では地方都市圏の大学生の地域愛着醸成に着
目し、大学生ならではの行動や活動、風土接触と地域
愛着との関係性について分析をした。その地域の居住
年数が長くなるにつれて、風土接触量が高く、地域に
対しての愛着が高くなる傾向が明らかになった。さら
に地域愛着に影響する要因を把握するための分析を行
った結果、風土接触が地域愛着に与える影響が高いこ
とが示された。本研究の結果は、これまで定性的・定
量的にほとんど語られることがなかった「その地域で
の風土接触」と「地域愛着」について、その関係の存
在を示唆したものといえる。